

自己評価結果公表シート（令和5年度）

東豊中幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・一人ひとりを大切に、遊びと生活を通して子どもたちの「積極的に生きる力」「自律性」を育てる。
- ・遊びや生活の中で、自分で考えて決める力を育てる。
- ・思いやりをもって人と関わる力を育てる。
- ・自分を大切に思う心を育てる。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・正規教職員・非常勤教職員ともに学び合うために必要な研修を計画する。また、教職員一人ひとりが主体的に参加し全体の資質向上に繋げる。
- ・教育理念に基づいた子どもの経験と活動を大切に、保育活動・園行事の見直しを行い計画をたてる。
- ・教職員の危機管理意識が向上できるよう様々なシチュエーションを想定し訓練を行う。
- ・預かり保育での子どもの育ちを重要視し、環境の充実を図る。
- ・保護者と園がつながる取り組みを多く取り入れる。
- ・教職員が働きやすい職場環境作り。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
保育者の質の向上	<ul style="list-style-type: none">・経験年数に合わせた外部研修に参加し、学んだ事柄を園内で共有し実践に繋げられるよう努めた。・全教職員対象・新任教員対象・補助教職員（非常勤）対象に園内研修を計画し、職員間のコミュニケーションをとり、チームでより良い保育ができるよう対話の時間を大切にした。・新任教職員がやりがいを感じながら園の一員として保育できるよう、フォローアップに努めた。
教育理念に基づいたカリキュラム計画	<ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことで、制限されていた活動や行事について見直しを行った。・感染症対策で制限があったクッキングやプール遊びなどの活動について、活動のねらいや安全管理などの研修をする時間を設け、保育の充実に努めた。
危機管理意識の向上	<ul style="list-style-type: none">・非常災害時に備え、様々なシチュエーション（火災・地震・不審者対応など）を想定した訓練を行い、職員の連携がとれる体制を確認し、危機管理意識が高められるようにしている。月に1回の災害訓練に加え、抜き打ちで訓練を取り入れ、職員の危機管理意識を高められるようにした。
預かり保育の体制見直しと室内環境整備	<ul style="list-style-type: none">・参加する子どもの姿に合わせて日々環境を考え設定し、子どもが安心して過ごせる保育環境作りに努めた。・保護者とコミュニケーションを図り、安心して子どもを預けられる環境を整えた。・園全体で預かり保育の位置づけを重要視した。

保護者と園がつながる新しい取り組み	・保護者が先生として保育参加する“いちご先生”や“つなガールとあそぼーい”の継続に加え、遠足やお泊り保育などの行事に保護者が参加できる機会を増やした。
働き方改革	・よりよい労働環境の構築のため、バス添乗の業務を在園児の保護者から募集し、職務分業を図った。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

コロナウイルス感染症が5類に移行したことから、変化する社会の状況に合わせ、保育活動や園行事一つ一つの実施方法を見直し、園の教育方針を根幹に置きながら発展する形を追求する姿勢を保つことができた。

全教職員対象・新任教員対象・補助教職員（非常勤）対象の園内研修を充実させることができた。

5. 今後取り組むべき課題

◇子どもの姿に合わせた環境づくりを進める。

◇職員の働き方改革を進める。（休憩時間の確保）

◇教職員間の情報共有が徹底できるよう努める。

◇子育て支援事業の新開設と充実

（2歳児保育・園庭開放・未就園児対象一時預かり・小学生対象放課後預かり）

6. 学校関係者の評価

動画配信システムを使って子どもの姿を発信すること、子どもたちの様子を日々丁寧に連絡することで保護者に園が大切にしていることをより理解してもらえるようになったと考えている。預かり保育の定員数を増やし、預かり保育利用希望の家庭に寄り添う体制を整えた。また、保護者が保育参加できるよう機会を多く設け、園での子どもの様子を見ることで成長を実感でき、保護者自身にも充実した時間を過ごしてもらっていると感じている。保護者からの理解を得られたことで保育者自身も志を高くもち、保育に臨むことができた。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。